

2019年3月期

# 決算・会社説明会資料

株式会社インターワークス（6032）

## 1. 通期連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,170	810	810	560	57.86
今回修正予想(B)	3,969	526	533	339	35.08
増減額 (B-A)	△200	△283	△276	△220	
増減率 (%)	△4.8%	△35.0%	△34.2%	△39.4%	
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	3,968	643	645	430	44.49

## 2. 修正理由

当社は、前期より当社の持続的成長に向けた構造改革を主要3事業（M&S事業・人材紹介事業・採用支援事業）にて行ってまいりました。M&S 事業・人材紹介事業は構造改革が奏功し、概ね計画通りに進捗しております。

しかしながら採用支援事業において、新卒採用需要の早期縮小に対応するインターンへの対応遅れ、及びHR-Technologyサービスへの顧客啓蒙から受注への転換が想定よりも遅れた事により繁忙期の受注獲得に至らず、計画通りに売上を伸ばすことができませんでした。

またHR-Technologyサービスが新しいサービス業態であることから、従来型の契約内容を見直した事等により、結果として、2019年3月期に計上予定であったHR-Technologyサービスの売上の一部が、翌期に計上されることになりました。

以上の理由により、昨日「連結業績予想の修正に関するお知らせ」を開示いたしました。

1

**2019年3月期 業績概要**

2

**2019年3月期 セグメント別比較**

3

**2020年3月期 成長戦略**

4

**Appendix**

# 1 2019年3月期業績概要

(単位：百万円)

	第1四半期		第2四半期累計		第3四半期累計		通期	
	当期	前年同期比	当期	前年累計比	当期	前年累計比	当期	対前年比
売上高	1,042	103.4%	1,985	102.5%	2,902	102.4%	3,969	100.0%
営業利益	115	70.5%	226	78.0%	310	79.3%	526	81.8%
経常利益	115	70.0%	231	79.3%	316	80.6%	533	82.6%
当期純利益	76	68.9%	152	84.6%	208	86.6%	339	78.9%

1

2019年3月期 業績概要

2

2019年3月期 セグメント別比較

3

2020年3月期 通期計画

4

Appendix

## 2-1 2019年3月期業績概要（セグメント別）

- ✓ M&S事業、人材紹介事業は概ね想定通り
- ✓ 採用支援事業が大幅な減収減益

（単位：百万円）

		当期	前期	対前年比	備考
M&S事業	売上高	1,949	1,907	102.2%	全社共通費を除くと事業利益も対前年比で横ばいであり、概ね想定通り。 主力の工場ワークスの売上高は対前年比107.7%と堅調。
	営業利益	466	494	94.2%	
人材紹介事業	売上高	1,081	901	119.9%	概ね想定通りの進捗。
	営業利益	129	100	128.3%	
採用支援事業	売上高	938	1,160	80.9%	佳境期である4Qの受注不振、および、HR-Technology サービスが新しいサービス業態であることから、従来型の契約内容を見直した事等により売上高計上の期ズレが発生したことで、大幅な減収減益
	営業利益	▲68	48	-	

### M&S事業

- ✓ 戦略投資(※)により、工場ワークスの**応募数は対前年比117.8%**
- ✓ 応募数増を背景に、工場ワークスの**売上高は対前年比107.7%の1,761百万円**

### 人材紹介事業

- ✓ 計画以上の**単価UP（対前年比106.9%）**。年収ターゲットを明確にした事業展開の成果。
- ✓ 成約件数は**対前年比108.0%**。計画比ではビハインド。

(※) 戦略投資

- ・ 成長戦略に沿った工場タイムズ、ドライバータイムズへの投資
- ・ 新基盤（システムプラットフォーム）への開発投資

### 採用支援事業 減収減益要因

#### 1. 従来型アウトソーシングサービスについて

- 顧客の絞り込みおよび受注不振による売上減 (単位：百万円)

前期売上実績	当期売上計画	当期売上実績	計画差異
1,030	1,030	840	▲ 190

#### 2. HR-Technologyサービスについて

- 佳境期である4Qの受注不振 (単位：百万円)

当期売上計画	当期売上実績	計画差異
230	98	▲ 132

※差異132百万円のうち、85百万円は2020年3月期に売上計上

- 新規販売ルート稼働が間に合わず

#### 3. 採用戦線の変化（外部環境）について

- 新卒採用需要の早期縮小に対応するインターンへの対応の不十分さ ※2019年2月の修正予想にて織り込み済み



1

2019年3月期 業績概要

2

2019年3月期 セグメント別比較

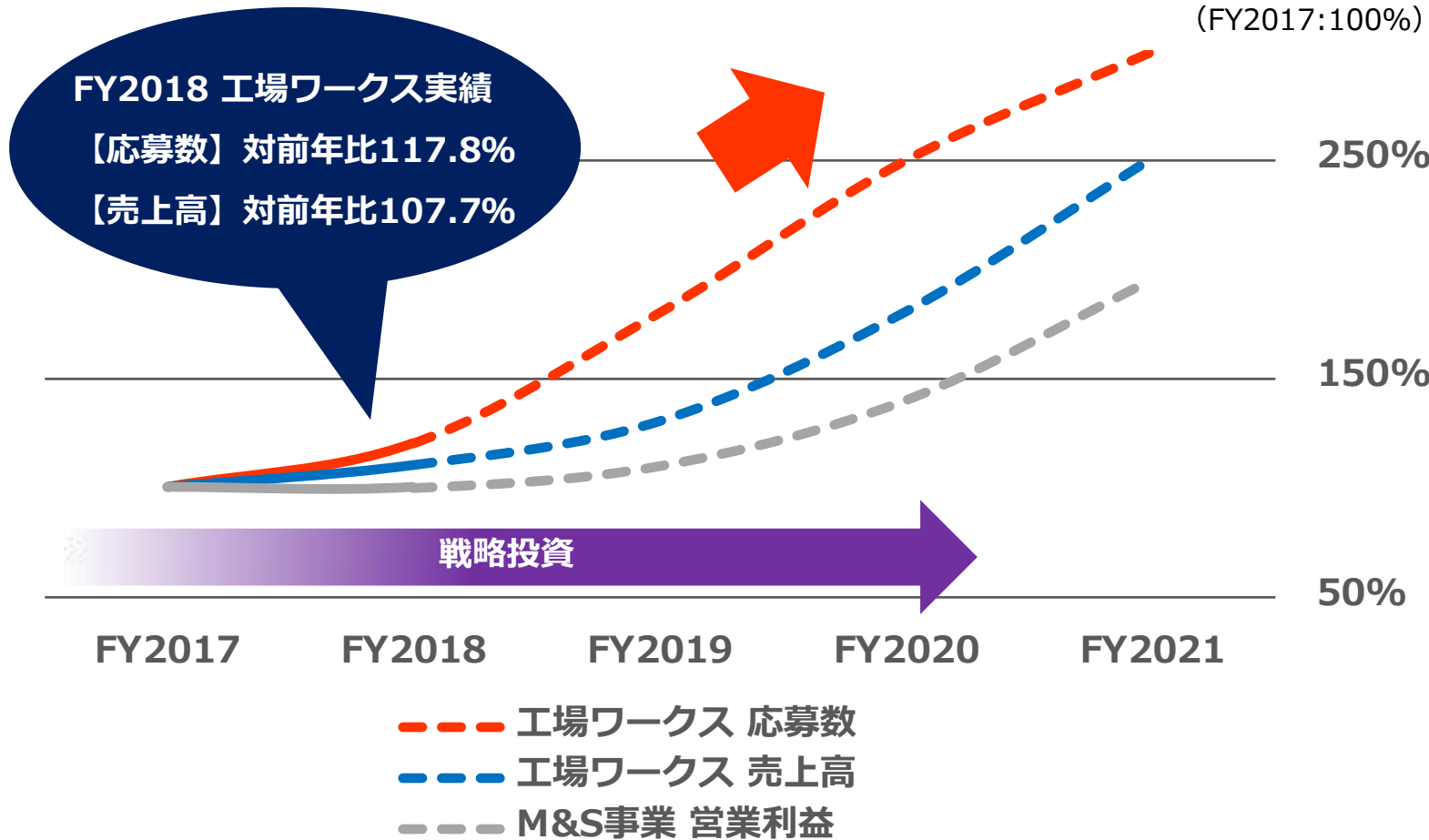
3

2020年3月期 成長戦略

4

Appendix

- ✓ 当面は工場ワークスでマーケットをおさえることに注力
- ✓ ①応募数②売上高③営業利益の順に成長させる

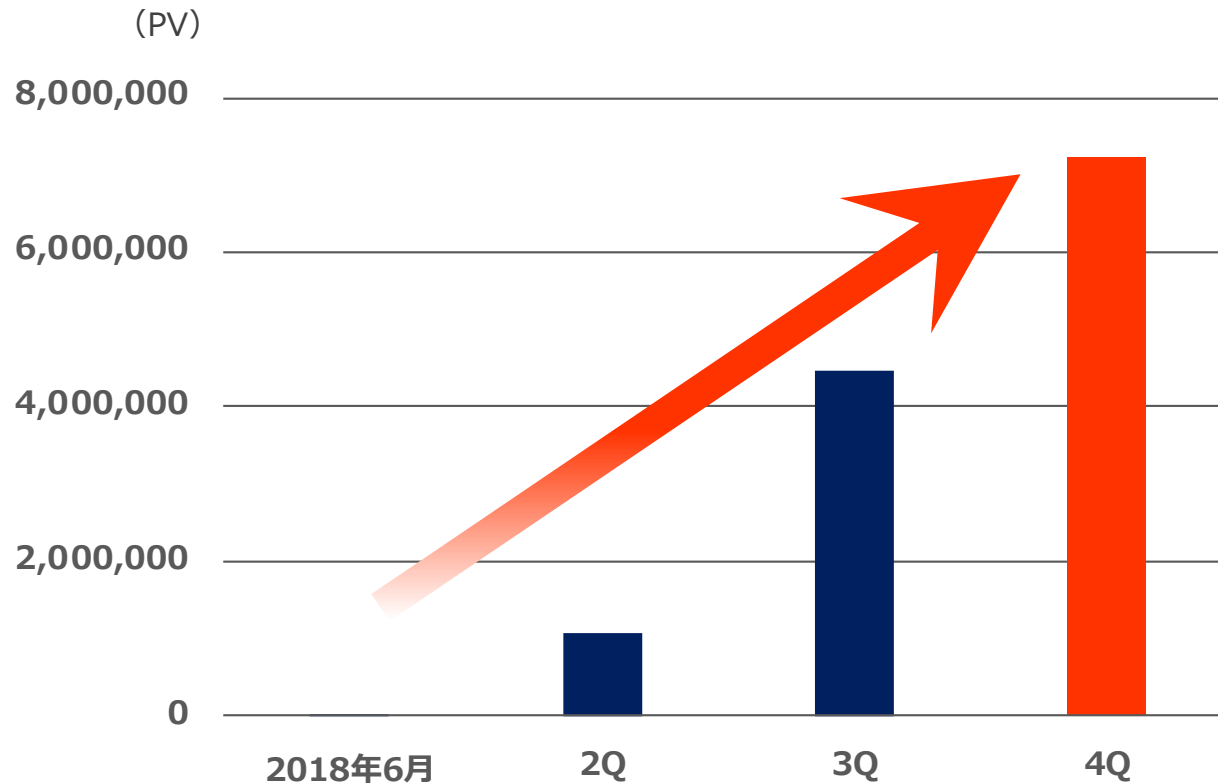


- ① システム投資により、求職者に支持されるメディアを構築。応募数を増やす。
- ② 応募数増を背景に掲載企業数を増やす(\*)。売上高増を実現し、セグメントNO.1の地位を確立する。
- ③ FY2020まではシステム投資を継続。営業利益は堅調成長を維持しつつ、FY2021で大きく伸張させる。

(\*) Appendix  
 FY2018 3Qからメーカー掲載数が200社を突破

- ✓2019年4月に求人メディア「ドライバーワークス」を開設(※)
- ✓今後も特定領域での新規メディア立ち上げを計画

### ➤ 6月ローンチのドライバータイムズのPV数は堅調に推移

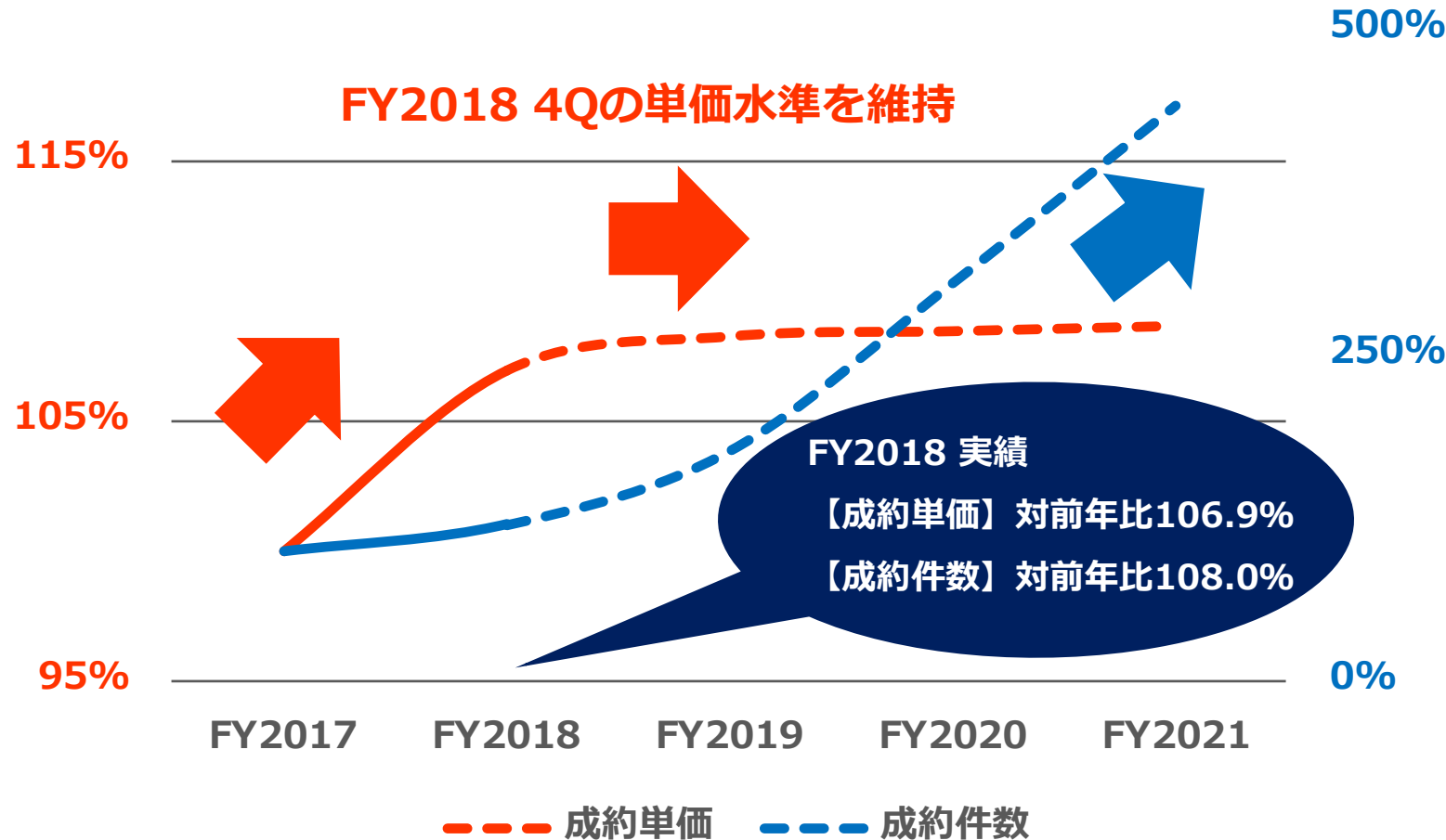


(※)2019/04/16  
「日本最大級のドライバー系ワークスタイルマガジン『ドライバータイムズ』が新たに求人サイトを開設。」

- ✓ 想定以上の単価UPを早期に実現。来期以降はこの水準を継続
- ✓ KPIの徹底により成約件数を伸ばすことで、売上増を実現する

成約単価  
(FY2017:100%)

成約件数  
(FY2017:100%)



① 成約単価のUP  
(ターゲットの明確化)

② KPIの徹底による、  
成約件数の伸張

③ マネジメント層の  
中途採用市場の拡大に貢献

- ✓コスト構造が改善。来期は改善後の粗利率での事業展開を計画。
- ✓売上高が横ばいでも、1Q営業利益が41百万円(※)押し上がる想定。

## ➤粗利率

	1Q	2Q	3Q	4Q	備考
FY2017 実績	42.2%	36.3%	32.3%	53.0%	-
FY2018 実績	34.4%	47.6%	48.2%	45.6%	コスト・リストラを実行した1Qを除くと、FY2017と比較して粗利率の平準化を実現
FY2019 計画	47.6%	47.6%	48.2%	48.2%	改善後の粗利率で事業展開

(※) FY2018 1Q セグメント売上高：317百万円を基に算出  
 ⇒ 粗利率が47.6%となると、1Q粗利額が41百万円押し上げられる

## 採用支援事業 FY2018 減収減益要因

### 1. 従来型アウトソーシングサービスについて

- 顧客の絞り込みおよび受注不振による売上減

前期売上実績	当期売上計画	当期売上実績	計画差異	
1,030	1,030	840	▲ 190	(単位：百万円)

## 前年実績の継続

### 2. HR-Technologyサービスについて

- 佳境期である4Qの受注不振

当期売上計画	当期売上実績	計画差異	
230	98	▲ 132	(単位：百万円)

- 期ズレ計上分85百万円 + 前年実績
- 新規販売ルートが稼働

- 新規販売ルートの稼働が間に合わず

### 3. 採用戦線の変化（外部環境）について

- 新卒採用需要の早期縮小に対応するインターンへの対応の不十分さ

## 営業活動の早期化で対応

✓ 売上高は対前年比126.0%、営業利益は同170.8%と成長を計画

単位：百万円	2019年3月期 ＜実績＞	2020年3月期 ＜計画＞	対前年比 ＜金額＞	対前年比 ＜率＞
<b>売上高</b>	3,969	<b>5,000</b>	+1,030	<b>126.0%</b>
<b>営業利益</b>	526	<b>900</b>	+373	<b>170.8%</b>
<b>経常利益</b>	533	<b>900</b>	+366	<b>168.8%</b>
<b>当期純利益</b>	339	<b>600</b>	+260	<b>176.7%</b>

✓ 期末配当（年間配当金）は30円00銭（配当性向85.5%）

	年間配当金	配当性向
29期(2019年3月期)確定	普通配当 30円00銭	<b>85.5%</b>
28期(2018年3月期)実績	普通配当 30円00銭	67.4%

※配当性向は、連結ベースで計算しております。

※当社は、2019年5月14日に開催された取締役会にて剰余金の配当額が確定いたしました。

※29期・配当金は、2019年6月10日に支払いを予定しております。



✓配当金30円00銭予想（配当性向48.5%）  
→30期は配当額を維持しつつ、配当性向を「40%以上」とする

	年間配当金	配当性向
30期(2020年3月期)見込み	普通配当 30円00銭	<b>48.5%</b>
29期(2019年3月期)確定	普通配当 30円00銭	85.5%

※配当性向は、連結ベースで計算しております。

✓ 経営体制の強化のため、以下3名を新任取締役候補者と致します

新任	氏名	略歴
代表取締役社長	武林 聡	1987年、株式会社リクルート入社。1992年、株式会社インテリジェンス（現：株式会社パーソル）へ取締役として入社、2001年同社取締役副社長。2004年、株式会社メディア（現：アルテリア・ネットワークス株式会社）代表取締役社長。2009年、株式会社USEN 取締役常務執行役員社長補佐。人材業界における知見・事業立ち上げ実績、ほか豊富な経営経験を基に当社の経営を監督することが最適であると判断。
取締役	松本 和之	1983年、本田技研工業株式会社入社。2010年、株式会社リクルートファクトリーパートナーズ代表取締役社長。2015年、株式会社TTM代表取締役社長（現任）。株式会社トラスト・テック取締役（現任）。製造業界、製造派遣業界、海外事業への深い見識及び豊富な経営経験を基に、当社経営に対する適切な役割が期待できると判断。
社外取締役	早川 与規	1992年、株式会社博報堂入社。2000年、株式会社サイバーエージェント取締役副社長兼COO。2004年、株式会社インタースパイア（現：ユナイテッド株式会社）を設立。2012年、ユナイテッド株式会社代表取締役会長CEO（現任）。IT業界に対する豊富な知見を基に、当社の経営に適切な監督・助言を頂けるものと判断。

※役員人事につきましては2019年6月27日開催予定の第29回定時株主総会及び総会後の取締役会において正式に決定される予定であります。  
詳細は別添リリースをご参照ください。

1

2019年3月期 業績概要

2

2019年3月期 セグメント別比較

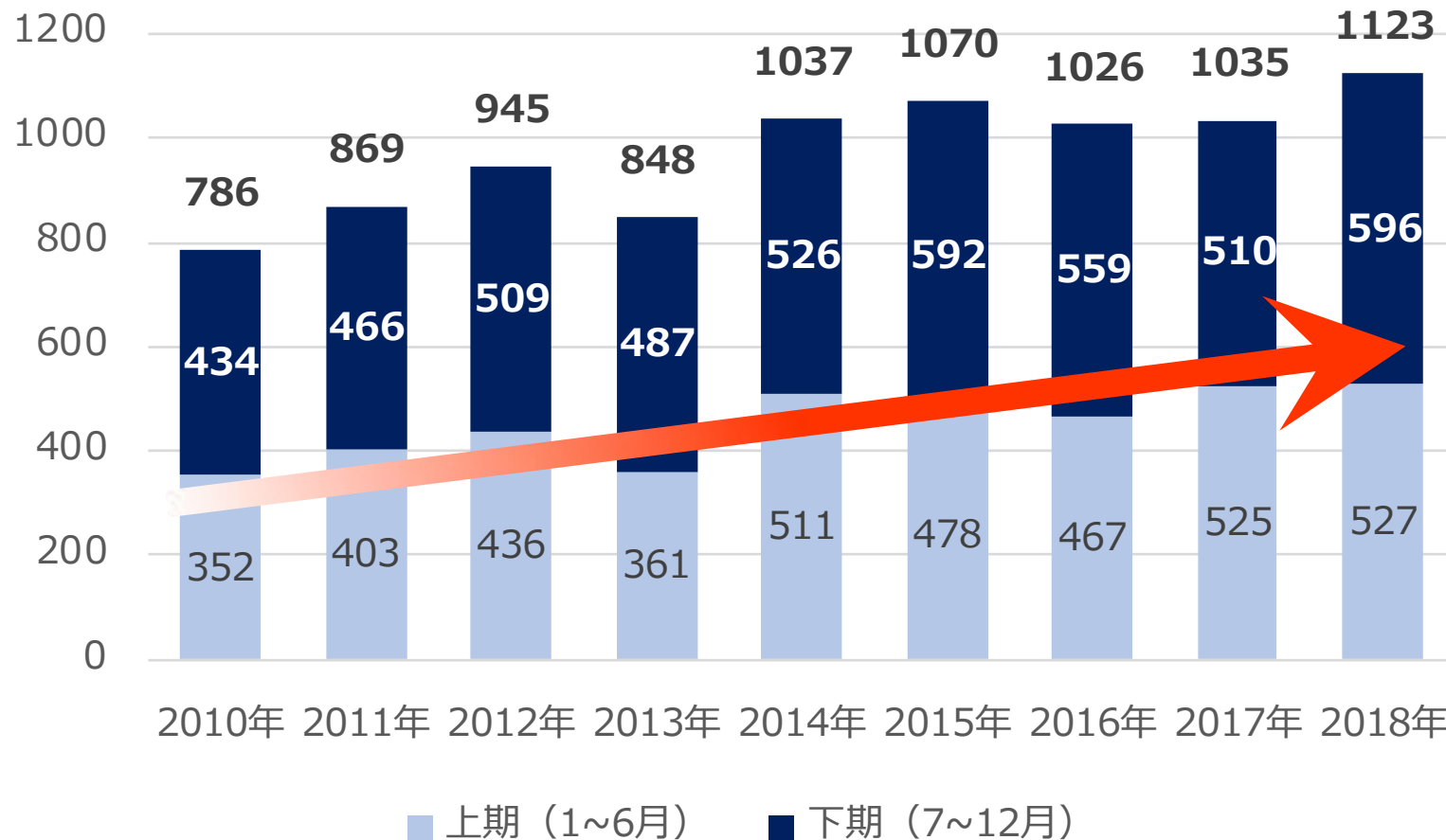
3

2020年3月期 成長戦略

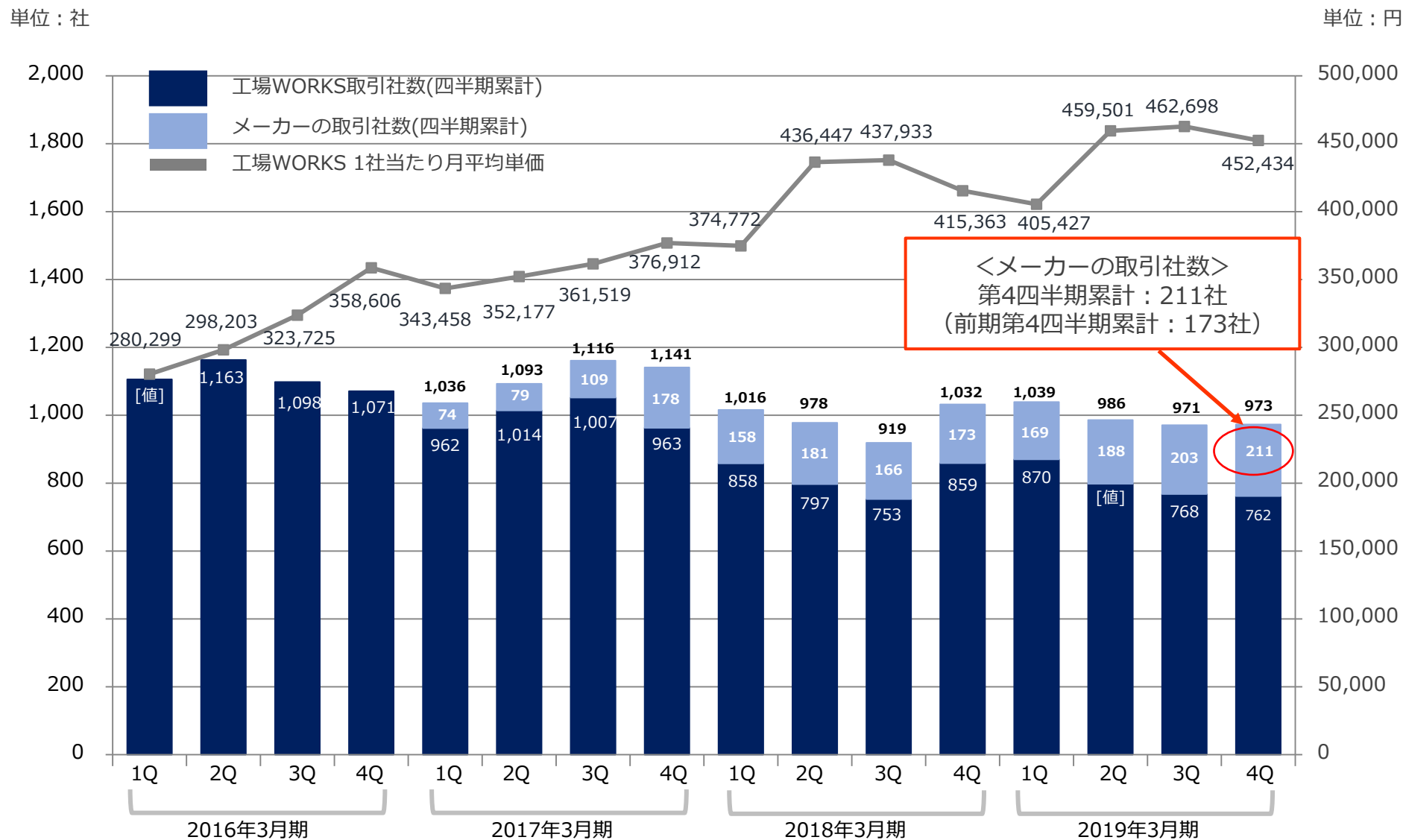
4

Appendix

✓ 工場立地件数は前年比8.5%の増加と堅調に推移  
→ 工場ワークスの外部環境は引き続きポジティブ



# <参考> 工場WORKS 1社あたり単価/取引社数



この資料は、株式会社インターワークス（以下、当社）の現状をご理解頂くことを目的として、2019年05月14日現在において当社が取得可能な情報に基づき作成したものです。

本資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、本資料にはいわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測、及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招きうる不確実性を含んでおります。それらのリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場環境、金利、通貨・為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報や将来にリスクイベントが発生した場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

以上を踏まえ、投資を行う際は、投資家の皆様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。